

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
保幼小中連携 中学校ブロック	点から面でつながるブロック連携	<ul style="list-style-type: none"> ・連携担当者のほかに連携が必要な担当を検討する。 ・無理のない範囲で月1回の連携担当者会を計画、実行する。 ・合同授業研で、連携カリキュラムを使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックとしての連携組織をつくる。 ・連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ・連携担当者以外の担当者会を1回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種担当者会を定期的に行う。 ・連携カリキュラムを活用した取り組みを実施する。
確かな学力の育成	学びに向かう力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、興味や関心を持つことができるような取り組みの検討、実践。 ・モジュール学習の計画立案。 ・ICT 機器を効果的に活用し、興味関心を引き出し、子どもたちの学習意欲向上を図る。 ・算数の授業では問題解決型学習の授業づくりの具体化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、表現し、伝え合うための技能の習得。 ・モジュール学習の推進 ・算数の授業では問題解決型学習を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。 ・ICT 機器を活用しながら「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、目的や場面に応じて、表現し伝え合うコミュニケーション力の育成。 ・モジュール学習の定着 ・算数の授業では問題解決型学習の授業を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。 ・ICT 機器を活用しながら全教科を通じて「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。
豊かな人間性を育む	一人ひとりを大切に、共に学び、支えあう集団を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究、実践の記録、交流、教職員の研修などを通して、全教職員の統一、実践力の向上を図る。 ・弱い立場の子、支援を要する子に視点をあてた集団づくりを進める。 ・「畑田小だより」「畑田小アンケート結果」や学年、学級通信で、家庭や地域とともに児童の豊かな人間性を育むよう啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が一致協力した児童指導体制のもと、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を行う。 ・男女共生教育を柱にすえ、困り感のある子、支援を要する子に視点をあて、違いを認め合う集団づくりを進める。 ・学校、地域、家庭が連携を図り、「正しく判断し、みんなで助け合い、学び合う」子どもの育成の啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の実践力の向上を目指し、人権教育・道徳教育についての研究を進める。 ・一人ひとりの違いを認め合い、すべての子どもの人権が尊重され、共に学び、共に育つことができる集団づくりを進める。 ・よりよい社会を育むことを自ら創造していく子どもの育成を念頭に、学校、家庭、地域が一体となった教育活動の啓発を進める。
健康・体力の増進	「運動が好き」「授業が楽しい」と思える子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・立命館大学と連携した「授業プログラム」のもと、授業改善や授業力向上を推進し、子どもの体力向上、運動への意識向上を図る。 ・運動の楽しさや喜びを味わうための授業、取組みを進める。 ・健康や安全についての興味関心を持つ態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業プログラム」の検証を行い、より良い授業づくりについての研究を推進する。 ・運動や健康について、友だちとの対話を通じて、課題の解決を目指す態度の育成。 ・生涯にわたって、健康・体力の増進に興味・関心を持つ態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究をもとに、児童の実態に応じた、系統性のある「畑田小体育カリキュラム」を作成する。 ・運動や健康についての課題を自ら発見し、解決に向けて、思考・判断し、伝える力の育成。 ・生涯にわたって、健康・体力の増進に意欲的に取り組む態度の育成。
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査



国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
やや課題が残る結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
(該当の問題なし)

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

- ・目的地までの行き方の正しい説明を選ぶなどの、話すこと・聞くことに関しては概ね良好な結果であった。
- ・文章の効果的な書き方を選択するなどの、書くことに関してはやや課題が残る結果であった。
- ・後半の問題に対しての無解答率が高かった。

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
良好な結果であった
- ④ 言語事項
(該当の問題なし)

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
(該当の問題なし)
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことに関しては特に良好な結果であった。
- ・自分の考えを書いたり、条件に合わせて要約したりすることに課題が残る。

分析

- ・国語 A に関しては、後半につれ無解答率が高くなっている。前半の問題に時間がかかり、後半の問題に取り掛かれない児童が多かったと考えられる。
- ・文章を読んで、条件に応じて自分の考えを書くことに課題がある。
- ・B問題(活用)において、全体的に概ね良好な結果であった。特に「読むこと」が良好であった。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
大変良好な結果であった
- ② 量と測定
概ね良好な結果であった
- ③ 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった
- ③ 記述式
(該当の問題なし)

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・数と計算については大変良好であり、低位層の児童の向上が見られる。
- ・特に角度を求める問題と、数の大小を比較する問題について、正答率が高かった。
- ・百分率を求める問題については正答率が低かった。
- ・グラフから変化の特徴を読み取る問題では、正答率が低く、無解答率が高かった。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった
- ② 量と測定
良好な結果であった
- ③ 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
やや課題が残る結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・グラフを読み、言葉や数を用いて記述する問題に対して無解答率が高い。
- ・条件に合う時間を求める問題については良好な結果であった。

分析

- ・全体的に良好な結果であった。
- ・数と計算については、大変良好な結果が出た。算数の授業前や朝の学習での基本的な計算の反復学習により、力がついてきたと考える。
- ・数量と図形に係る問題に対しては、A問題 B問題両方で理解の定着に課題がある。

○●理科●○

(領域ごと)

- ①物質 概ね良好な結果であった
- ②エネルギー 概ね良好な結果であった
- ③生命 概ね良好な結果であった
- ④地球 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・土地の浸食についてや、川の水位などの自然事象についての知識や実験結果などを問われる問題に対して良好な結果であった。
- ・電流の流れ方などについての問題に対して、正答率が低く、やや課題が残る。
- ・記述式の問いに対しての無解答率が高い。

分析

- ・全体的に良好な結果であった。
- ・問題解決の力を育むため、観察・実験等の科学的な学習活動の充実を図る必要がある。
- ・観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実させる必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・昨年度に比べて無解答率が高い。
- ・国語の基礎基本的な力に課題がある。
- ・全国平均に比べて、国語は低い、算数や理科は高い。しかし、昨年度と比べると、全体的に下がっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・高位層と低位層の二極化が見られる。
- ・国語 A において低位層が多い。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

<各クラス、学年での取組み>

国語

- ・記述力を伸ばすために、自分の考えを書く、まとめる学習活動を取り入れる。
- ・朝の学習以外にも、読書活動を充実させ、じっくり落ち着いて文脈を理解する力を伸ばしていく。
- ・自分の考えを発表し、交流する時間を設定し、話す力を伸ばしていく。
- ・読書活動と並行して、多くの文章に触れる活動を意図的に増やし、読解力と漢字を読む力を伸ばしていく。

算数

- ・問題解決型学習に力を入れ、自分で考え、言葉や式で説明できる力を伸ばしていく。
- ・課題の導入を工夫し、児童の興味関心、学習意欲を持つことができるようにする。
- ・表やグラフなどの問題に多く触れ、苦手意識を減らすようにしていく。
- ・朝の算数タイムを継続して、基本的な計算力の向上を進める。

理科

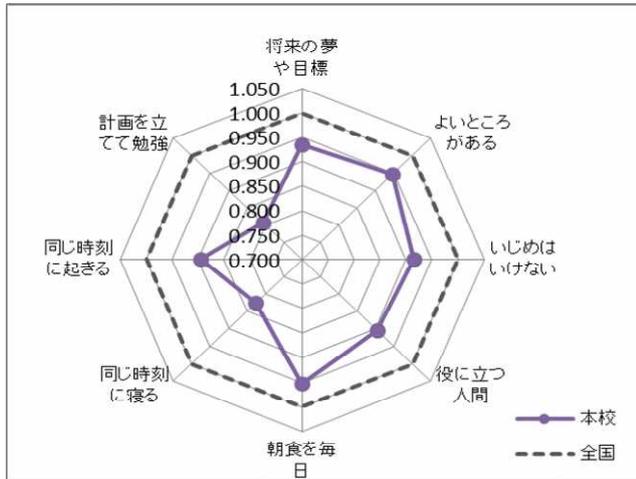
- ・各単元において、課題、予想、結果、考察の流れを統一して、学習を進める。
- ・問題解決の力を育むため、観察・実験等の科学的な学習活動の充実を図る。
- ・観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実し、日常生活や社会との関連を図る。
- ・単元の最後に単元の復習をノートにまとめる活動を、家庭学習や授業の中で取り入れる。

全校での取組み

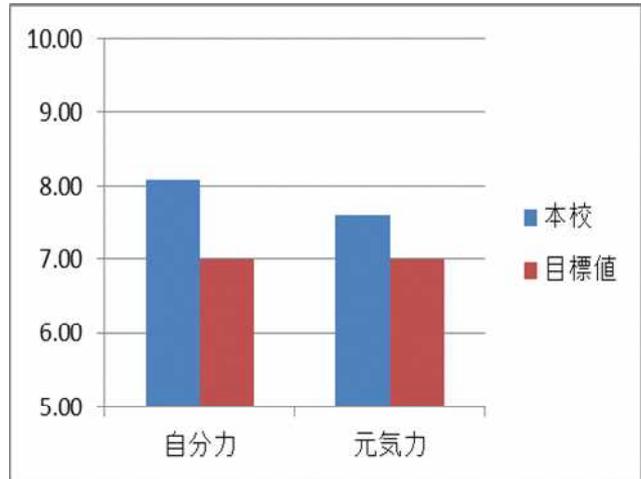
- ・朝の読書活動の時間を継続し、読み取る力を伸ばしていく。
- ・高学年は、委員会・クラブのない6時間目を利用し、力試しプリントや新聞記事を使ったワークシートに書いたり、まとめたりすることで、本校の課題である「算数の数量関係の力」や、「国語・算数の書くことの力」を伸ばしていく。併せて、過去の問題に取り組む機会を設ける。
- ・授業のスタンダードをつくり、全校で取り組む。
- ・教科の理解度を見る到達度チェックを行い、取組みに生かしている。
- ・1時間の授業の振り返りとして、学んだことや、気づいたことをまとめて書くことで書く力や考える力を伸ばしていく。
- ・モジュールタイムや朝学習の時間（短時間で集中することを意識する）を利用し、「ことばのちから」「力だめしプリント」「理科定着プリント」に積極的に取り組み、各領域の力を伸ばしていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- ・全体的に全国平均より下回っている。
- ・自ら計画を立てて学習することや復習や予習など、宿題以外の学習習慣の定着に課題がある。
- ・学習に関しての関心が低いことから、意欲的に学習に取り組むことができていない。
- ・毎日寝る時間が違うことや起きる時間も違うことから、生活習慣に乱れが見られる。
- ・規範意識が希薄である。学校のきまりを守る意識やいじめに対する意識が低い。
- ・自己有用感、自己肯定感が希薄である。自分と人(社会)とのつながりを感じる事ができていない。
- ・自分に課題となるようなことがあった時に、すぐにあきらめてしまう傾向がある。

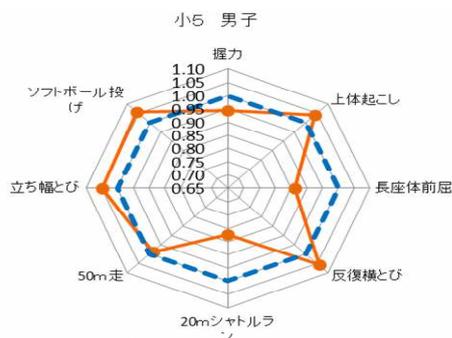
取組み

- ・意欲をもって、自らどのように解決していくか、見通しをもって学べるような課題の提示を工夫する。
- ・計画的に取り組むことができる家庭学習を提示し、保護者にも協力をお願いする。
- ・共に学び、共に育つという意識の向上を図り、人とのつながりが持てるように集団づくりを強化する。
- ・自己有用感・自己肯定感を高めることができるように、お互いを認め合い、達成感や満足感を感じることができるような取組みを設定する。
- ・道徳教育を強化し、その他学校教育活動全体を通じて、自己と他者を尊重する心の育成を進める。
- ・将来の目標に向けて、何事にも挑戦し、どんな場面においても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする力を育成するために、キャリア教育の充実を図る。
- ・ゲストティーチャーや人権講演会などを通じて、多様な生き方や価値観に触れる機会を設ける。
- ・異年齢集団と関わる活動を設定し、相手を思いやる気持ちを育む。
- ・生活習慣の改善に向けて、児童と保護者に継続して啓発に努める。

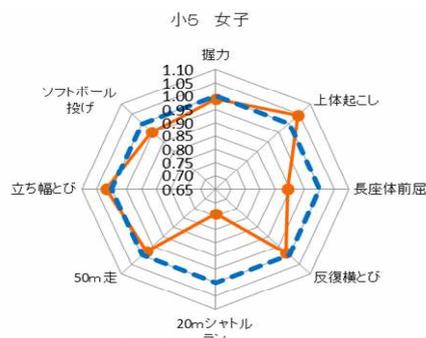
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

〇●体力●〇

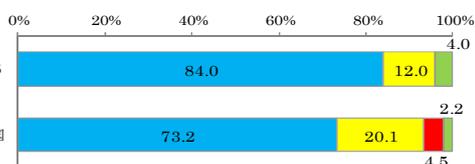
男子 (小5)



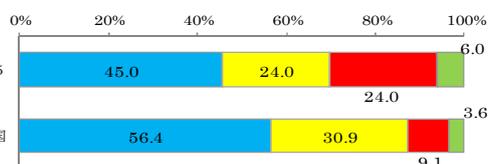
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

アンケート結果によると、運動部に入っている児童が多く、1日の運動にかける時間も長いことがわかった。また運動やスポーツを好意的に思っており、運動の重要性も理解している児童が多かった。ただ一方で、運動は好き、大切だと思うが体力に自信がないと答える児童が多数おり、この結果は昨年と同様であった。体育の授業は「楽しい」・「やや楽しい」と答える児童が8割を超えていた。ただ、男子は「楽しい」と答える児童が8割を占めていたが、女子は「楽しい」と答える児童が約半数だった。またぐっすり眠れていることができますかの問いに対して、週に6日以上が約半数しかおらず、なんとなく体のつかれやだるさを感じているかの問いに対しては「ある」、「ときどきある」という意見が約8割を占めていた。この結果から生活習慣にも課題があると考えられる。

体力テストの結果によると、男子は3学年とも全国平均を下回った。女子は4年、6年が全国平均を上回り、5年生が下回った。4年生は握力に課題が顕著に表れていた。5年生男女、6年生男子は長座体前屈と20mシャトルランに課題がみられた。6年生女子は優れた結果が見られた。その背景に運動部やスポーツクラブに入っている児童が全国平均を大きく上回っていたことも関係していると考えられる。

学校全体としては昨年同様、柔軟性と持久力を高める運動を進めたい。また、課題が明確に表れていたところも多かったので、課題のある能力を重点的に向上させる取組みもすすめていきたい。

取り組み

- ・ 授業内容を見直し、児童が興味関心を持ち、意欲的に取り組むことができるような授業づくりに努める。
- ・ 学校全体で体力向上を目指す取組みを検討、実施する。
- ・ 立命館大学と連携した「体育授業パワーアッププログラム」を実施し、持久力の向上を目指す。
- ・ 持久力の向上を目指し、保健体育部、体育委員会とともにマラソン・なわとび週間を実施する。
- ・ 立命館大学と連携した「短時間運動プログラム」を実施し、柔軟性の向上、または各学年の実態に応じた活用法で課題解決に取り組む。
- ・ 体育授業スタンダード、系統性のあるカリキュラムを作成し、統一された一貫性のある体育授業を進める。
- ・ 生活面に関しては、児童や保護者への啓発に努め、保健教育にて生活習慣や睡眠についての学習を進める。